

大学・専攻機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F118110105597	改題内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
大学名	福井大学	設置区分	国立	事業計画名	福井大学工学研究科博士前期課程における Informatics IMAGINEER 養成
学校種	大学	都道府県	福井県		

1. 年度別の計画及び取組状況

毎年度の事業計画（上欄：研究科等の設置及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育現場の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画より変更又は追加した取組内容場合は取組状況を赤字で記載してください。また、計画変更申請した場合は取組状況に赤字日付を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が2つ2つの場合は、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合は「取組」欄に記載する必要はありません。

事業年度	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	<p>【情報系組織の入学定員】<修士> 74名 工学研究科知識社会基礎工学専攻（博士前期課程） 知能システム科学コース（入学定員25名） 工学研究科知識社会基礎工学専攻（博士前期課程） 情報工学コース（入学定員26名） 工学研究科産業創造工学専攻（博士前期課程） 経営技術革新工学コース（入学定員5名） 工学研究科安全社会基礎工学専攻（博士前期課程） 電気システム工学コース（入学定員16名）</p> <p>① 8月：知能システム科学コースと情報工学コースの入学試験を、増員された専業人員で実施（それぞれ12名と9名の増員により、専業人員はそれぞれ37名）。 ② 9月：機能強化する4コースが協力して教育の質の向上を図るため、高度情報教育実施委員会（仮称）を設置。 ③ 9月：知能システム科学コースと情報工学コースの学習成果可視化システムを開発。 ④ 2月：本事業で予定している増員への対応のため、知能システム科学コースを担当する教員1名を学内措置（学内予備）で先行して採用。 ⑤ 3月：知能システム科学コースと情報工学コースの教育用計算機システムの強化のための環境整備（サーバーーム強化等含む）</p>	<p>【情報系組織の入学定員】<修士> 74名 工学研究科知識社会基礎工学専攻（博士前期課程） 知能システム科学コース（入学定員25名） 工学研究科知識社会基礎工学専攻（博士前期課程） 情報工学コース（入学定員26名） 工学研究科産業創造工学専攻（博士前期課程） 経営技術革新工学コース（入学定員5名） 工学研究科安全社会基礎工学専攻（博士前期課程） 電気システム工学コース（入学定員16名）</p> <p>① 8月：知能システム科学コースと情報工学コースの入学試験を、増員された専業人員で実施（それぞれ12名と9名の増員により、専業人員はそれぞれ37名）。 ② 12月：機能強化する4コースが協力して教育の質の向上を図るため、高度情報教育実施フォーラムを設置。 ③ 3月：知能システム科学コース、情報工学コース、経営技術革新工学コース、電気システム工学コースの学習成果可視化システムを開発。 ④ 2月：本事業で予定している増員への対応のため、知能システム科学コースを担当する教員1名を学内措置（学内予備）で先行して2月1日付けで採用する予定で公開を行い、複数の応募があったが、適切な候補者がいなかったことより再公募し、R6年6月1日付けで採用予定の人事を進めている。 ⑤ 3月：知能システム科学コースと情報工学コースの教育用計算機システムの強化のための環境整備（サーバーーム強化等含む）</p>	<p>○年度自己評価 ◎計画を十分に実施している。</p>
令和6年度	<p>【情報系組織の入学定員】<修士> 95名 4月：工学研究科知識社会基礎工学専攻（博士前期課程） 知能システム科学コース 12名増員予定（入学定員37名） 4月：工学研究科知識社会基礎工学専攻（博士前期課程） 情報工学コース 9名増員予定（入学定員37名）</p> <p>① 4月：知能システム科学コースと情報工学コースで教員1名（計2名）を採用。 ② 4月：知能システム科学コースと情報工学コースで特別講義等提出の新規講義を採用。 ③ 4月：知能システム科学コースと情報工学コースにおいて改訂された教材を公開。 ④ 4月：知能システム科学コースと情報工学コースの教育用計算機システムの導入開始。 ⑤ 情報工学コースの教育用計算機システムの強化・更新。 ⑥ 8月：電気システム情報工学コースと経営技術革新情報工学コースの入学試験を、増員された専業人員で実施（それぞれ6名と3名の増員により、専業人員は22名と8名）。 ⑦ 10月：電気システム情報工学コースと経営技術革新情報工学コースで教員1名（計2名）を採用。 ⑧ 10月：電気システム情報工学コースと経営技術革新情報工学コースの学習成果可視化システムを開発。 ⑨ 3月：電気システム情報工学コースと経営技術革新情報工学コースの教育用計算機システムの強化。 ⑩ 3月：DX教育に係る設備導入及び授業の改善。</p>	<p>○年度自己評価 ◎計画を十分に実施している。</p>	
令和7年度	<p>【情報系組織の入学定員】<修士> 104名 4月：工学研究科産業創造工学専攻（博士前期課程） 経営技術革新情報工学コース2名増員予定（入学定員8名） 4月：工学研究科安全社会基礎工学専攻（博士前期課程） 電気システム情報工学コース6名増員予定（入学定員22名） ③ 経営技術革新工学コースと経営技術革新情報工学コース、電気システム工学コースと電気システム情報工学コースに名称変更。</p> <p>① 4月：本事業で機能強化する4コースにおいて令和6年度に開始した取組を継続。 ② 4月：電気システム情報工学コースと経営技術革新情報工学コースにおいて特別講義等相当の新規講義を採用。 ③ 4月：電気システム情報工学コースと経営技術革新情報工学コースにおいて改訂された教材を公開。 ④ 4月：本事業で機能強化する4コースの学生が利用する教育用計算機システム（ソフトウェアライセンス等を含む）を更新。 ⑤ 4月：教育用サーバ収集・分析を委託。</p>	<p>○年度自己評価 ◎計画を十分に実施している。</p>	
令和8年度	<p>【情報系組織の入学定員】<修士> 104名 ① 4月：令和6年度、令和7年度に開始した取組を継続。 ② 9月：次年度に予定している外部評価に向け、準備委員会を設置。</p>	<p>○年度自己評価 ◎計画を十分に実施している。</p>	
令和9年度	<p>【情報系組織の入学定員】<修士> 104名 ① 4月：令和6年度、令和7年度に開始した取組を継続。 ② 9月：本事業で機能強化する4コースについて、特別講義の実施状況、情報PBLの実施状況、インターンシップの実施状況、教育用計算機システムの活用状況、高度情報専門人材の輩出状況（可視化された学習成果の実績含む）等々、毎年度のモニタリングの結果を総合して検証し、改善を要する点の抽出と対応措置の策定を実施。 ③ 3月：上記結果を自己点検評価書にまとめて公表するとともに、外部評価を実施。また、FDシンポジウムを開催して結果を広く広報し、教育プログラムの質の向上に活用。 ④ 3月：情報工学コースのサーバームを改善。</p>	<p>○年度自己評価 ◎計画を十分に実施している。</p>	
令和10年度	<p>【情報系組織の入学定員】<修士> 104名 ① 4月：令和6年度、令和7年度に開始した取組について、前年度策定の対応措置を踏まえて改善を進める。 ② 4月：令和6年度に知能システム科学コースと情報工学コースで強化した教育用計算機システムを、自己点検評価書及び外部評価の結果も踏まえて更新。</p>	<p>○年度自己評価 ◎計画を十分に実施している。</p>	
令和11年度	<p>【情報系組織の入学定員】<修士> 104名 ① 4月：令和9年度策定の対応措置を踏まえて取組の改善を引き続き進める。 ② 4月：令和9年度に電気システム情報工学コースで強化した教育用計算機システムを、自己点検評価書及び外部評価の結果も踏まえて更新。</p>	<p>○年度自己評価 ◎計画を十分に実施している。</p>	
令和12年度	<p>【情報系組織の入学定員】<修士> 104名 ① 4月：令和9年度策定の対応措置を踏まえて取組の改善を引き続き進める。 ② 4月：令和6年度に経営技術革新情報工学コースで強化した教育用計算機システムを、自己点検評価書及び外部評価の結果も踏まえて更新。</p>	<p>○年度自己評価 ◎計画を十分に実施している。</p>	
令和13年度	<p>【情報系組織の入学定員】<修士> 104名 ① 4月：令和9年度策定の対応措置を踏まえて取組の改善を引き続き進める。 ② 9月：次年度に予定している外部評価に向け、準備委員会を設置。</p>	<p>○年度自己評価 ◎計画を十分に実施している。</p>	
令和14年度	<p>【情報系組織の入学定員】<修士> 104名 ① 9月：本事業で機能強化する4コースについて、特別講義の実施状況、情報PBLの実施状況、インターンシップの実施状況、教育用計算機システムの活用状況、高度情報専門人材の輩出状況（可視化された学習成果の実績含む）等々、毎年度のモニタリングの結果を総合して検証し、改善を要する点の抽出と対応措置の策定を行う。 ② 3月：上記結果を自己点検評価書にまとめて公表するとともに、外部評価を実施。これを踏まえて、本事業終了後の教育プログラム継続に向けた施策を決定。</p>	<p>○年度自己評価 ◎計画を十分に実施している。</p>	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福井大学
-------------	-------	-----	------

2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付けられている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3. 申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック
- ② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画になっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ③ 産業界を含む社会のニーズを踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育が柱となる編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑤ 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）、含む。）、（以下「研究科等」の設置等という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学期において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑦ 社会において具体的な人材ニーズが顕在化する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑧ 教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種別変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特別枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種別変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）

既設の情報系分野に係る研究科等を有する	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
---------------------	--
- ⑨ 機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑩ 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑪ 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時まで他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
-----------------------	--
- ⑫ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑬ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。

認定を受けている、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
認定を受ける計画が進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福井大学
-------------	-------	-----	------

③ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
--------------------	--

4. 審査事項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できず、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>(1) 未来協働プラットフォームふくい推進事業の支援など、福井県との連携のもと、情報PBLを新規開講し、本事業で整備する計算機システムも活用して高度情報技術の基本的な実践能力を修得させる課題解決型プロジェクトを実施する。</p> <p>(2) 福井大学産学連携本部協会の企業との連携による「インターンシップ（企業派遣実習）」、工学研究科が派遣先を開拓する「長期インターンシップ」を開講し、情報系企業への派遣を進め、企業現場で適する課題解決力を備えた高度情報専門人材を育成する。業務経験のある教員等が、事前事後の研修と新規受け入れ先の開拓に参画する。また、本事業で実施する外部評価において、派遣先企業の担当者等と評価委員に加え、外部の職員等を教育プログラムの質の向上に参画する。</p> <p>(3) 情報系企業から講師を招聘して産業界の最新技術動向と解説する特別講義を実施し、学生の視野を広げる。</p>	<p>(1) 令和6年度から情報PBL I（2単位）と情報PBL II（4単位）を開講するための教育課程表の改正を行った。12月には、先端科学技術育成センター創成教育部門が情報PBL I、IIの課題を公募し、情報PBL Iで4件、同IIで3件の課題を選定した。2月には、福井県とも連携してこれらPBLを実施できるよう、「未来協働プラットフォームふくい推進事業」に依頼し、3月に採択の通知を受けている。</p> <p>(2) 令和6年度から福井大学産学連携本部協会の企業との連携による「インターンシップ（企業派遣実習）」（2単位）を開講するための教育課程表の改正を行った。さらに、実務経験のある教員（地域共生推進本部講師）が同インターンシップに係る事前事後の研修を受け入れ先の開拓を中心として担う体制とした。長期インターンシップ（4単位）についても、企業等との共同研究の経験が豊富な教員（先端科学技術育成センター副センター長）が中心となって事前事後の研修を受け入れ先の開拓を担う体制のもと実施することとした。</p> <p>(3) 8月に、ソフトバンク株式会社から講師を招聘して知識社会基礎工学特別講義II（1単位）を実施し、31名の学生が移動通信の基礎と最新動向を学び単位を修得した。また、令和6年度は日本電信電話株式会社から講師を招聘して同講義を実施することとし、必要な手続きを行った。</p>	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>(1) 県内初等中等教育機関に働きかけ、小・中学生を対象に本学の教育研究成果を分かりやすく伝え、興味・関心を持ってもらうことを目的に既存のカーンキャンパス等とは別に「福大未来キャンパス」-中・高生のための未来発見講座-を実施する。本学女性教員による企画や理系女子を対象とした企画を盛り込み、情報系分野も含め理工系人材の裾野を広げる取組を推進する。</p> <p>(2) 福井県と連携して、高等学校における探究活動の支援、大学における探究プロジェクトの開催等の取組を情報系分野も含め推進し、新学習指導要領で重視される「探究活動」の実践による主体的・対話的で深い学びを育む高次接続教育を実現する。</p>	<p>(1) 10月に、「福大未来キャンパス2023 -中・高生のための未来発見講座-」を開催し、情報系を含む14のプログラムに中学生166名が参加した。理系進学に興味がある女子中学生に向けたプログラム「Women in Science Seminar 2023」では、本学の女性卒業生や女性教員が、研究内容などを紹介した。また、3月には、令和6年度「福大未来キャンパス2024 -中・高生のための未来発見講座-」に向けた企画の公募を行い、本学女性教員による企画2件、理系女子を対象とした企画1件、理工系の企画9件など、情報系分野も含め理工系人材の裾野拡大に資する企画の増加があった（現在、実施準備を進めている）。なお、福大未来キャンパスの実施にあたっては、県内の小中学校長会での紹介や高等学校への案内など、参加者確保の取組を行っている。</p> <p>(2) 福井県教育委員会および福井県大学私学連携推進課と連携し、探究学習を支援する以下の取組を行った。(i) 高等学校に対する探究活動の支援（探究学園のコンサルテーションなど）を行い、工学部・工学研究科からの65名の教員を7校に派遣した。(ii) 本学に高校生を招聘して行う探究プロジェクト「福井フレッシュ」を実施し、工学部・工学研究科が設定した情報分野を含む11のテーマ12校から102名の高校生が参加した。令和6年度もこれらの取組を実施することを決定している。</p>	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>(1) 福井県・福井県教育委員会、お茶の水女子大学と連携し、県内の女子高校生が最先端のIT技術、データサイエンスを学ぶ「高校生世代理系人材育成事業」を実施する。本県の女子高校生の理系進学率の低さ（理学部：東京都35%、本県19%、工学部：東京都20%、本県11%）を踏まえ、本県6校（SSH指定校4校と理数科を有する2校）の女子高校生を対象に、Google日本支社や地元情報関係企業の現場体験や本学での成果発表を通して女性techリーダーを育成する。</p> <p>(2) 福井大学産学連携本部協会の、福井大学同窓経営者の会企業と連携して社会人学生を受け入れる。</p> <p>(3) 「グローバル・エンジニアメント推進本部（UFGE・仮称）」を設置し、協定校からのグローバルコースに基づき、機軸したグローバル・リーダー人材育成プログラムを核として情報系分野も含め優秀な留学生を獲得していく。</p>	<p>(1) 令和5年度に福井県教育委員会と「ふくいGirls未来のテクノロジープロジェクト」を実施した。この取組は、県内の女子高校生30名（応募51名から選抜）を対象に首都圏研修や地元企業や本学との連携で実践的なデジタルスキル修得の機会を提供し、理工系分野への進路選択を促進するもので、主な内容は、次のとおりである。①首都圏研修（Google Japan, Amazon Japan, チーム7の発見、体験、HP作成や女性エンジニアとの懇談等）②ゼミ講座（プログラミング、AIチャット作成、ブログ統計、データ分析等）③テックハブセッションガールズへの参加（なお、本事業は、お茶の水女子大学エンタープライズ・イノベーション研究所の佐々木成江特任教授（R6.4.1より東京大学大学院理学系研究科特任准教授）の監修によるもので、県教育委員会、県内高校、企業、大学（本学）が連携して実施する女性techリーダーの取組として内閣府男女共同参画の専門調査会でも報告された。</p> <p>(2) 3月に、工学部・工学研究科と福井大学同窓経営者の会の懇談会を初めて実施し、同窓経営者の会の企業と連携して社会人学生を工学研究科博士前期課程に受け入れる可能性について検討した。企業の特性に応じてコースに強弱があることを踏まえ、産学官連携本部協会も含め引き続き関係者と協議を進めていくこととしている。</p> <p>(3) 3月に、グローバル・エンジニアメント推進本部（IGE）の設置を決定した（設置は令和6年4月）。同本部は、外国人留学生の受け入れから国内定着及びグローバル・リーダー人材の輩出までを一貫して行うことを目的としており、今後、工学研究科と同本部のグローバル戦略部の協力のもと、情報系分野も含め留学生の獲得を進める。留学生の獲得には、令和5年度に検討され令和6年度から導入が決まった「私費外国人留学生奨学金（優秀な正規留学生支援枠）」も活用することとしている。</p>	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>(1) 文部科学省「宇宙航空科学技術推進委託費」の支援を受け、福井大学、金沢大学、石川高専が連携して「AI・デジタル化×宇宙技術革新人材育成プログラムAI-STEP」を実施する（2022～2024年度）。支援終了後は、本計画で採用する教員の参加も得て、プログラムの成果を踏まえた新たな展開に取り組み、関係者の連携のもと高度情報専門人材の育成を進める。</p> <p>(2) 推薦入学の一環として、専攻科学生を対象とした連携講座の検討など、推薦入学の協定を締結している専攻科との連携を強化する。</p> <p>(3) 北陸地区国立大学連合（福井大学、高山大学、金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学）の枠組みの中、先端情報技術に関する研究交流をベースにした学生の専門能力向上の取組を、本事業で採用する教員等の参加も得て、さらに進める。</p> <p>(4) 学術交流協定を結んでいるタイのシーナカリンワット大学等との間で情報系大学院生・教員の交流を定期的に行う。</p>	<p>(1) 文部科学省「宇宙航空科学技術推進委託費」の支援のもと、令和5年度に、福井大学、金沢大学、石川高専が連携して「AI・デジタル化×宇宙技術革新人材育成プログラムAI-STEP」を継続して実施した。本学では、3スティア構成のプログラムの中核をなすワークショップを、情報工学科の教員が中心となって12月に開催し、中学生、高専生、高校生、大学院生計26名が実際にAIを構築する課題に取り組んだ。</p> <p>(2) 6月に、博士前期課程への推薦入学の協定を締結している福井高専を対象とした研究室訪問を実施し、情報系5名を含む32名の専攻科学生を受け入れ、研究内容の説明も含め、交流を行った。さらに、8月～9月には、工学部への編入学を促して工学研究科の情報系のコースへの進学が期待できる同高専の本科の学生を対象としたインターンシップを実施し、情報系の2つの研究室に2名のインターンシップ生を受け入れて情報分野の専門能力の育成を行った。今後もこれらの取組を継続しつつ、高専と連携した人材育成のあり方を検討することとしている。</p> <p>(3) 令和5年度に、情報工学科の教員が北陸地区の他の国立大学の教員と共同して実施する研究プロジェクト2件が、大学間連携事業として北陸地区国立大学連合「北陸地区国立大学学術研究連携支援」に採択され、定期的な合同セミナーの開催やプレゼンテーションの合同指導の実施など、同事業をベースにした学生の専門能力向上に取り組んだ。これら2件の研究プロジェクトは、令和6年度の採択も決定している。</p> <p>(4) 7月に、情報工学科の教員6名と、シーナカリンワット大学の教員8名の間で、オンラインによる交流を実施し、今後の連携のあり方を検討した。その結果、今後の定期的な交流も視野に、令和6年度にシーナカリンワット大学の学生が本学を訪れて、情報工学科の学生と交流しながら情報分野の課題に取り組むインターンシッププログラムを実施することを決定した。また、8月に、知能システム工学科の教員1名がカンボジア工科大学（ITC）を訪問し、今後の共同プロジェクトについて検討した。そこに、知能システム工学科の学生も同行して参加し、研究内容の発表とITCの学生との交流を行った。さらに、来年度も引き続き交流を行うことを決めた。</p>	

大学名	福井大学	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	-----------------

3-3. 学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	855	855																		
		入学者数	人	889	883																		
	その他の学期	入学定員	人	0	0																		
		入学者数	人	0																			
	入学者合計	入学定員(A)	人	855	855	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	889	883	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.04	1.03	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員(C)	人	3,745	3,745																		
		編入学定員	人	105	105																		
		在籍者数(D)	人	4,022	4,026																		
		編入学者数	人	97	101																		
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.07	1.08																		

4. 外部資金の状況（全学）

年度			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		5,891,970																		

特記事項

2-4-1_修士	1-2. 修士課程（1）～（4）の R5年度、R6年度のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味しています。
2-4-1_b	2-1. 博士課程、2-2. 修士課程の R5年度、R6年度のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味しています。
2-4-1_b	2-1. 博士課程のR5年度、R6年度の春季入学入学定員は、博士後期課程全体の入学定員です。
2-4-1_b	2-2. 修士課程のR5年度、R6年度の春季入学入学定員は、目安募集人員です。
2-4-1_b	3-1. 博士課程、3-2. 修士課程の R5年度、R6年度のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味しています。